

神戸市夜間景観形成実施計画<概要版>

— 都心・ウォーターフロントエリア —

神戸らしい夜間景観にさらに磨きをかけ、「デザイン都市・神戸」の都市ブランド力を高めるため、「神戸市夜間景観形成実施計画(都心・ウォーターフロントエリア)」を平成24年3月に策定、R3年3月に改定を行いました。

この実施計画に基づき、“滞在型観光の促進”や“産業・文化の振興”をねらいとしながら、市民・事業者・大学等・行政が連携した取り組みを進めていきます。

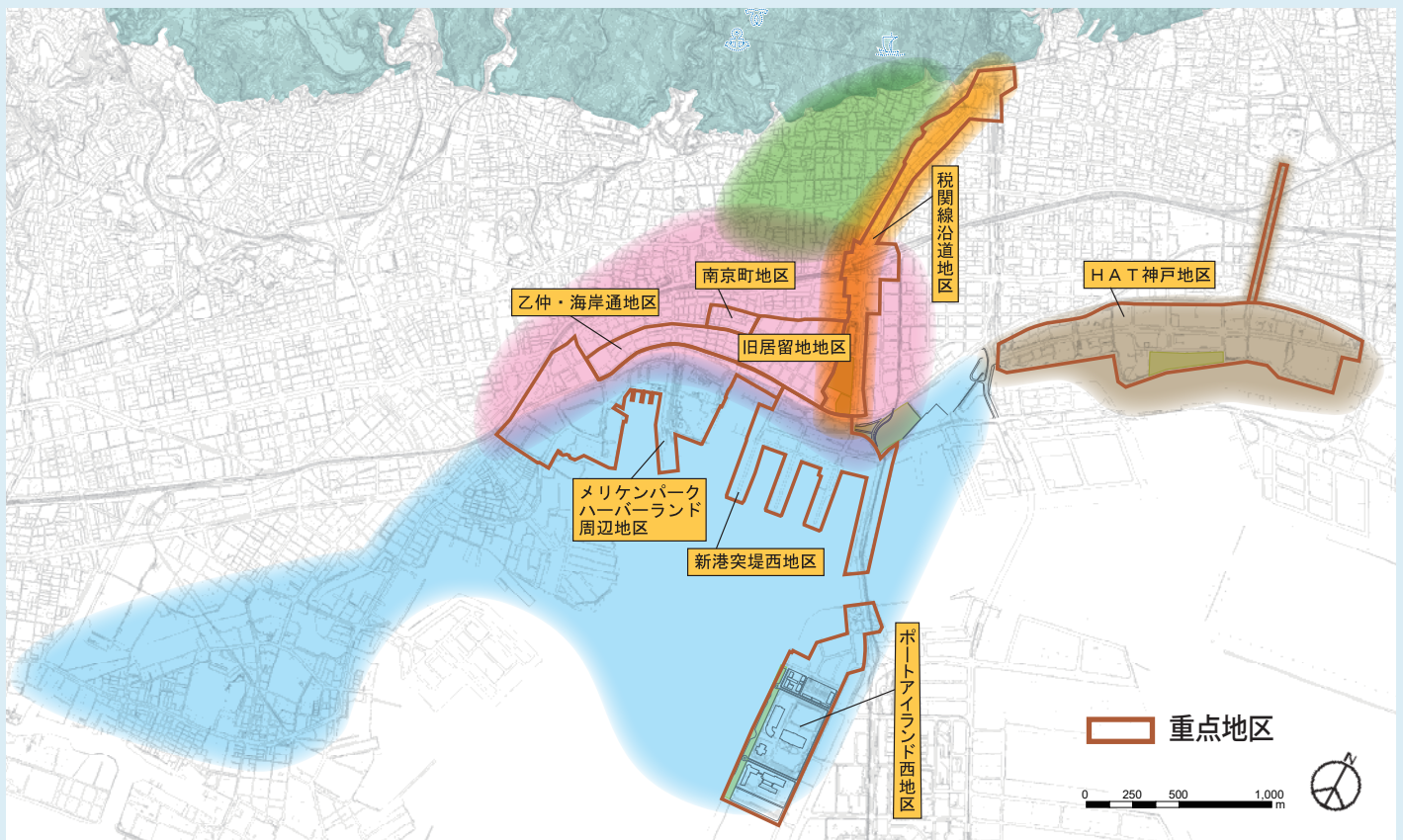
これまでの取り組みの現状と課題

神戸市における夜間景観形成の取り組みについては、ポートタワーなどのランドマークや歴史的建造物のライトアップ、「神戸ルミナリエ」に代表される光のイベントの開催などをはじめ、行政だけでなく、民間事業者や地域団体においてもさまざまな取り組みが進められてきました。

その結果、実施計画に基づき各地区が連携しながら、良好な神戸らしい夜間景観形成を図ってきましたが、これまで神戸市としての新たな取り組みや周辺自治体の動向、昨今の社会経済情勢などを踏まえ、さらなる良好な夜間景観形成の推進に向けて、例えば「選択と集中により施策を実施」、「情報発信の充実」などのような考え方が求められています。

計画の対象エリア

本計画での対象エリアは、市内外からの来訪者が多く、滞在型観光の促進に向けてより効果が高いと思われ、また、神戸の魅力を効果的に発信できると思われるエリアである、三宮からハーバーランドまでのJR以南を中心に、HAT神戸や北野・トアロード・県庁・兵庫運河周辺なども含む「都心・ウォーターフロントエリア」とします。



対象エリア

フラワーロードゾーン
都心ゾーン

都心北ゾーン
HAT神戸ゾーン

ウォーターフロントゾーン

重点地区での取り組み（一部抜粋版）

税関線沿道地区

都心を貫く「シンボリックな光」の演出

神戸を代表する道路軸である
フラワーロードを擁する地区

- 光の演出「KOBEライトアップDAY」にあわせ、カラーライトアップがフラワーロードで実施
- 「光のミュージアム」による統一された照明整備が順次実施されており、花・植栽・モニュメント等を夜間の景観資源として活用

〈方針〉

- ▶フラワーロードは「光のミュージアム」の実施により、電球色を基調としつつ、KOBEライトアップDAYを牽引する、メインロードとしてふさわしい光の演出を実現
- ▶三宮クロススクエア部、北側エリアと南側エリアでのそれぞれの特徴を活かした、魅力的な夜間景観形成を推進



旧居留地地区

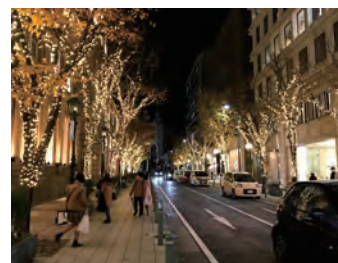
落ち着いた風格のある「大人の光」の演出

質の高いレトロな建築群や店舗群で構成された、
神戸を代表する落ち着いた風格のある地区

- 建物やショーウィンドウのライトアップも各所で施されており、期間限定の特別色ライトアップイベント開催へ展開
- 地区内の街灯は、順次電球色LED照明に改修
- ナイトマーケットなどの夜間イベントも実施

〈方針〉

- ▶統一した電球色での光の演出をめざし、建物の照明や街路樹なども含め、一体感が出る夜間景観形成を推進
- ▶店舗などから漏れるあかりを活用し、夜のそぞろ歩きが楽しめる、豊かにぎわいのある仕掛けづくり



南京町地区

活気ある「賑やかな光」の演出

古くから中国雑貨・飲食店・食料品店などが軒を連ねる、
中国風情緒豊かな地区

- あずまやや楼門、長安門のライトアップが改善され、中国風情緒あふれる個性的な夜間景観を形成
- ランタンフェアでの通りへのランタン照明による連続した灯りの演出は、きわめて良好な夜間景観を演出

〈方針〉

- ▶南京町広場を通る東西方向・南北方向の通りを中心に、中国風情緒あふれる個性的な夜間景観の形成に向けた取り組みを推進
- ▶現在の南京町の賑わいを活かしながら、何度でも訪れたいような取り組みを推進



乙仲・海岸通地区

個々の店舗が織り成す「ほのかな光」の演出

おしゃれで個性的な店舗が建ち並び、
レトロな雰囲気演出する地区

- 主な通りの街路灯が電球色へ整備され、明るく温かみのある通りの演出が実現
- 店の看板照明は、電球色の投光式が多く、柔らかい光がヨーロッパのようなレトロな雰囲気を演出

〈方針〉

- ▶店舗の個性的なあかりを活かし、道路照明の色味を電球色に調整する、足下のほのかな光の演出を推奨するなど、やわらかな一体感を生み出す夜間景観形成を推進
- ▶通りの両端と交差部などは、地区への入口としてだけでなく、他地区へと繋がるような魅力的なゲート景観として光の演出を推進



メリケンパーク・ハーバーランド周辺地区

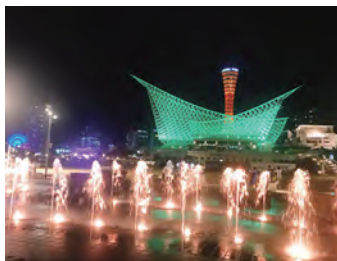
海辺に映りこむ「きらびやかな光」の演出

ポートタワーや神戸海洋博物館等があり、みなと神戸の賑わいと活気ある夜景のシンボリックな地区

- 「BE KOBE」モニュメントはライトアップ演出もされ、新たな観光拠点を創出
- 数多くのイベントも開催される賑わいの場

〈方針〉

- ▶入口部での“ゲート景観”の形成、水際へと誘導する光の演出など、そぞろ歩きしたくなる夜間景観形成を推進
- ▶ハーバーランドから中突堤、さらに第一突堤へとつながる楕形の地形を活かし、上空や海上、対岸から見る魅力的な光を演出
- ▶海辺であるが故、機器が傷みやすいため、充実した維持管理体制を構築



新港突堤西地区

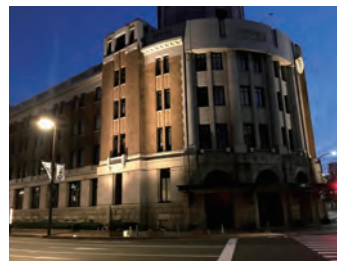
みなと神戸らしい「新しい光」の演出

“新たな創造産業複合ゾーン”として、みなと神戸の新たな親水空間の創出を推進する地区

- 「デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)」がライトアップされている。「みなとのもり公園」などの新たな魅力スポットも生まれている
- 神戸港の夜景のシンボルの一つである「神戸大橋のライトアップリニューアル」が完成

〈方針〉

- ▶税関線沿道地区と中突堤周辺地区を繋ぐエリアとして、特徴的な楕形突堤を活かし、既存の施設を活用しながら人の流れを生み出し、今後の整備を促進するような取り組みをめざします



ポートアイランド西地区

神戸港を一望する新名所のしかけづくり

コンテナバース跡地に大学や公園が整備され、潤いのある親水空間に生まれ変わった地区

- 「ポーアイしおさい公園」は、神戸港全体を眺める絶好の視点場となっており、夜間の光の演出ポイント「BE KOBE」モニュメントが完成
- 北公園は、神戸大橋のライトアップや対岸のメリケンパークの連続した夜景が望める好ポイント

〈方針〉

- ▶神戸港全体を眺める海側からの夜景の視点場として、また、対岸から見られる視点場として、活用のしかけをおこないながら、さらなる魅力アップを推進



HAT神戸地区

アートを活かした夜のしかけ

ハーバーウォークや県立美術館などがあり、水際空間の開放性や親水性を活かした、海とアートを感じられる地区

- 彫刻やモニュメント等が、夜間景観の資源として未活用
- 県立美術館から原田の森ギャラリーまでの縦軸「ミュージアムロード」が未整備

〈方針〉

- ▶ハーバーウォーク、なぎさ公園は、照明改善を含めた夜間景観整備を推進
- ▶地区の中心軸である東西線の照明を電球色へ改善
- ▶ポイント箇所のライトアップやJR灘駅前広場の改修により、ミュージアムロード全体の夜間景観整備を推進
- ▶アートを活かした地域連携イベントの企画・実施を推進



対象エリア全体での各地区が連携した取り組み

夜景景観の魅力を効果的・効率的に高めるためには、それぞれの地区での取り組みとともに、各地区が連携・補完しながら取り組みを進めていくことが重要です。各地区での取り組みをつなげ、相乗効果を発揮できるよう、対象エリア全体での連携した取り組みを進めます。

- ◆ランドマークなどのライトアップ推進
- ◆“ゲート景観”の創出
- ◆まちなかでの視点場づくり
- ◆公共空間の照明改善
- ◆案内サインの改善
- ◆都心・ウォーターフロントを眺める視点場の魅力アップ
- ◆季節や時間などテーマ性を意識した総合的な光の演出
- ◆既存のイベントの連携強化
- ◆「魅力的な夜間景観」の発掘・PR
- ◆魅力的な夜景観光商品の開発
- ◆「夜景観賞バス」などによる回遊性の向上
- ◆情報発信の充実
- ◆事業者、子どもなどへの普及啓発
- ◆夜間景観形成支援制度の充実
- ◆玄関としてのおもてなし
- ◆夜間景観形成基準の検討

夜間景観形成支援制度

夜間景観形成実施計画に基づいた良好な夜間景観形成のための、都心・ウォーターフロントエリアの地域団体や民間事業者が行う取り組みに対して、夜間景観形成のガイドラインやルールづくりを支援する照明アドバイザーの派遣や、夜間景観の魅力アップや省エネ化につながる照明整備等に対する支援を行っています。

- 【概要】
- ①夜間景観形成アドバイザーの派遣
 - ②夜間景観形成整備等への助成



今後の展開

本計画では8つの重点地区を設定しましたが、今後は、取り組みの必要性や地域での取り組みへの機運などをふまえ、必要に応じて重点地区の追加も検討しながら、目標実現に向けた取り組みを進めていきます。

市民・事業者・大学等・行政の“協創”で
「デザイン都市・神戸」の魅力的な夜間景観の形成

